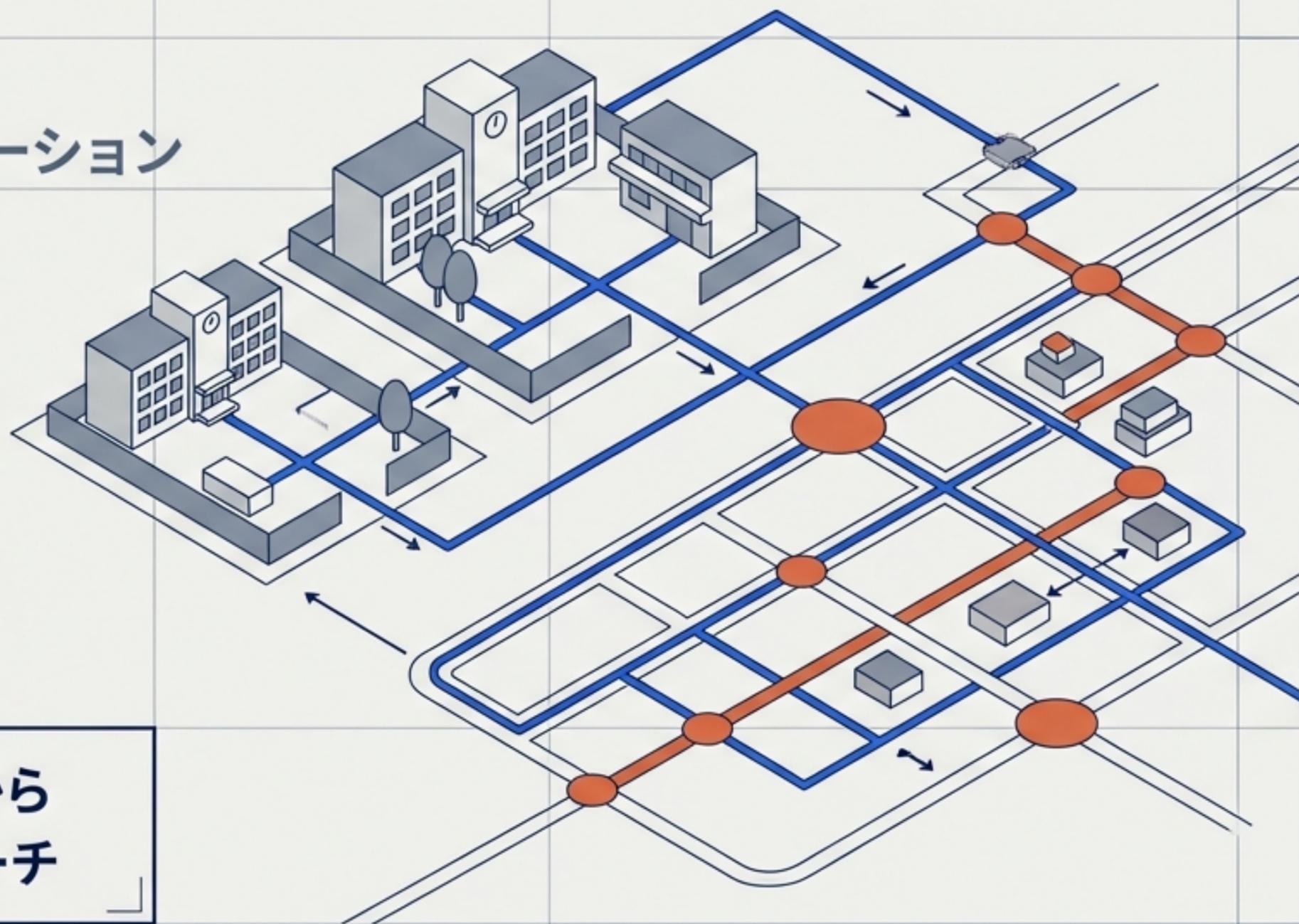


ITで教育が変わる

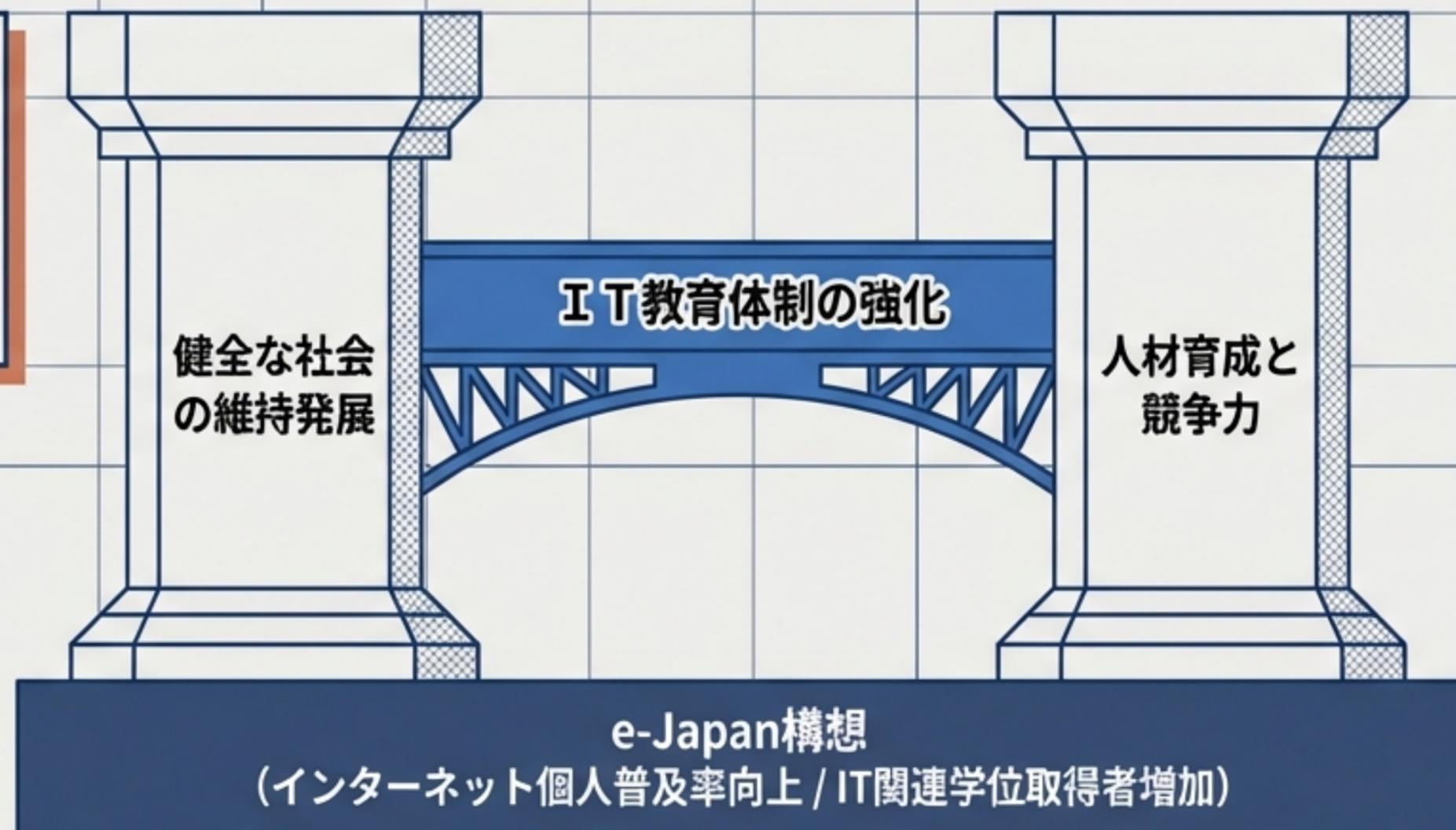
高度情報化社会を牽引する、
日本の教育システム・トランスフォーメーション



「e-Japan」構想に基づく、初等教育から
大学までのIT化全体像と戦略的アプローチ

なぜ今、教育のIT化なのか？

高度情報化社会の維持・発展において、情報技術と情報リテラシー教育は国家の最重要課題である。



 e-Japan構想の目指す未来: 単なるインフラ整備にとどまらず、**社会全体のリテラシー向上**を絶対的な基盤とする。

 本質的アプローチ: 「**初等教育** (小中高)」における基盤整備と、「**高等教育** (大学等)」における**独自進化**の2軸で、国の教育体制を抜本的に強化する。

戦略的分岐点：トップダウンの基盤 vs. ボトムアップの競争

初等教育（小中高）

大学・高等教育

原動力

国の政策・トップダウン
(例：ミレニアム・プロジェクト)



大学独自の考え・学生獲得競争
(少子化対策)



主眼

インフラ整備と
カリキュラムの「標準化」



情報リテラシーと
サービスによる「差別化」



対象

全ての児童生徒
(全国一律の底上げ)

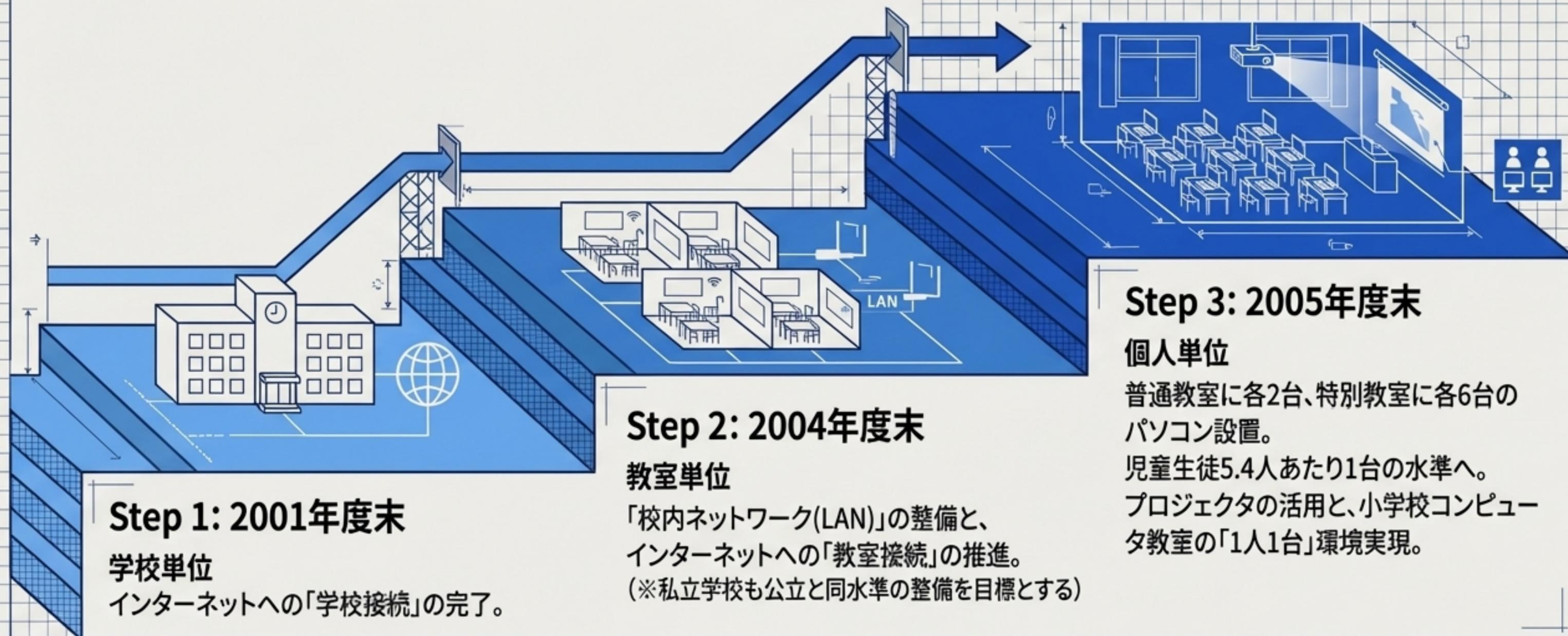


一般社会人および
高度な情報活用者
(実践的スキルの獲得)



初等教育のインフラ整備：マクロからミクロへの推進スケジュール

2005年度末までに「全ての学級」の「あらゆる授業」で活用できる環境を整備。



2003年「情報」正課化：2つのアプローチ



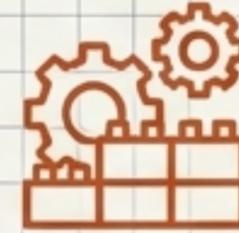
普通教育

【目標】

情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度の育成。

【内容】

情報技術を活用する知識・技能の習得。
情報に関する科学的な見方や考え方。
社会の中で情報が果たす役割や影響の理解。



専門教育

【目標】

社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度の育成。

【内容】

各分野の基礎的・基本的な知識と技術の習得。現代社会における意義の理解。
高度情報通信社会の諸課題に対する主体的・合理的な解決。

大学が直面する「改革の必然性」

文部科学省の指示ではなく、独自の生き残り戦略としてのIT化。

学生の高度化

高校までのIT教育充実による、さらなる高度な学習内容への要求。

少子化と競争

少子化に伴う厳しい学生確保競争。他大学との明確な「差別化」が必須に。

大学

企業ニーズと就職

IT革命下における企業からの即戦力ニーズ。学生自身の「就職に有利な能力習得」に対する強い関心。

マルチメディア利用の光と影：導入の目的と立ちはだかる障害

導入の目的

立ちはだかる障害

教育の効果をあげるため

特定の教員に負担がかかる

広報活動のため

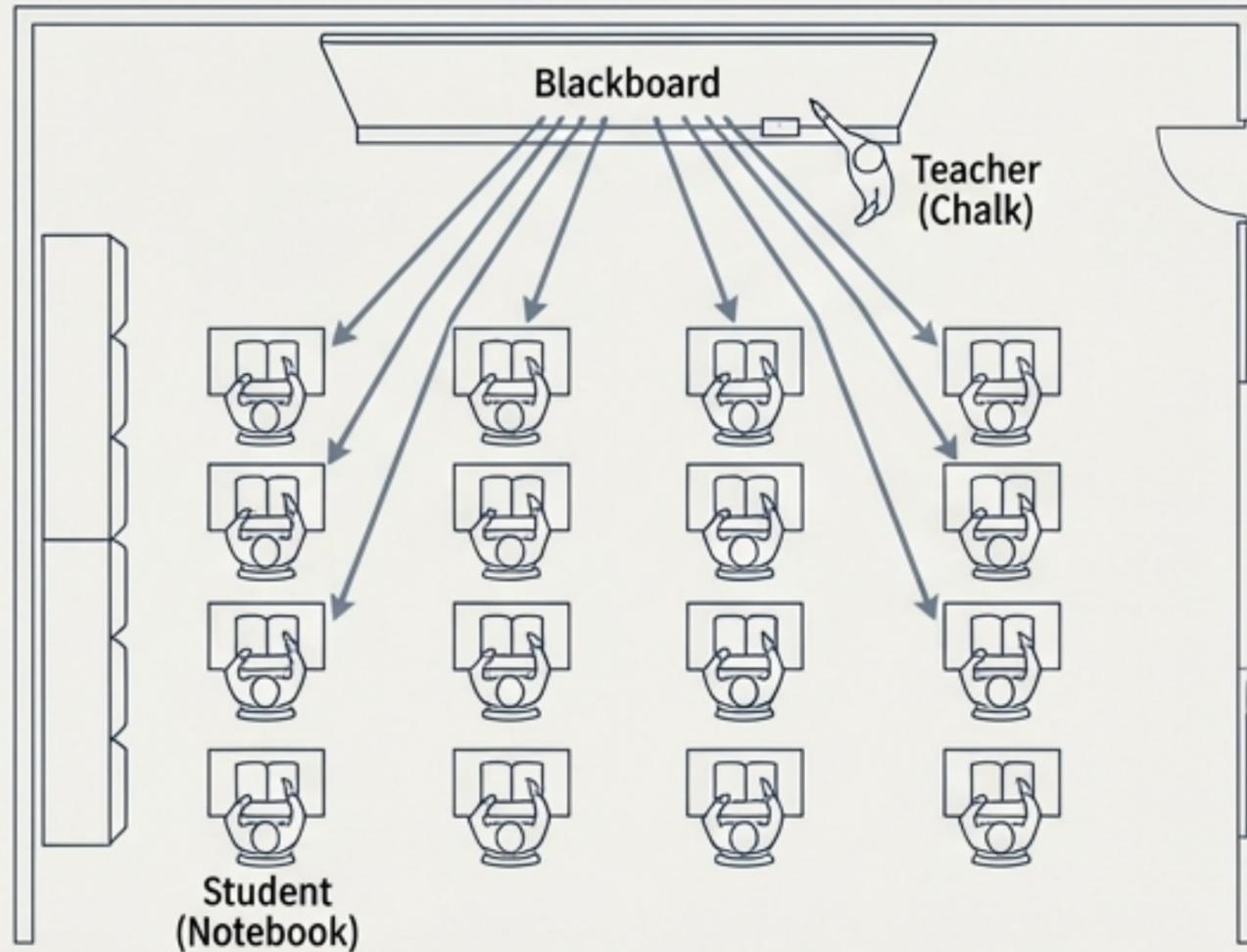
機器設備の導入・維持費用がかかる

学生の動機づけを高めるため

支援スタッフが不足している

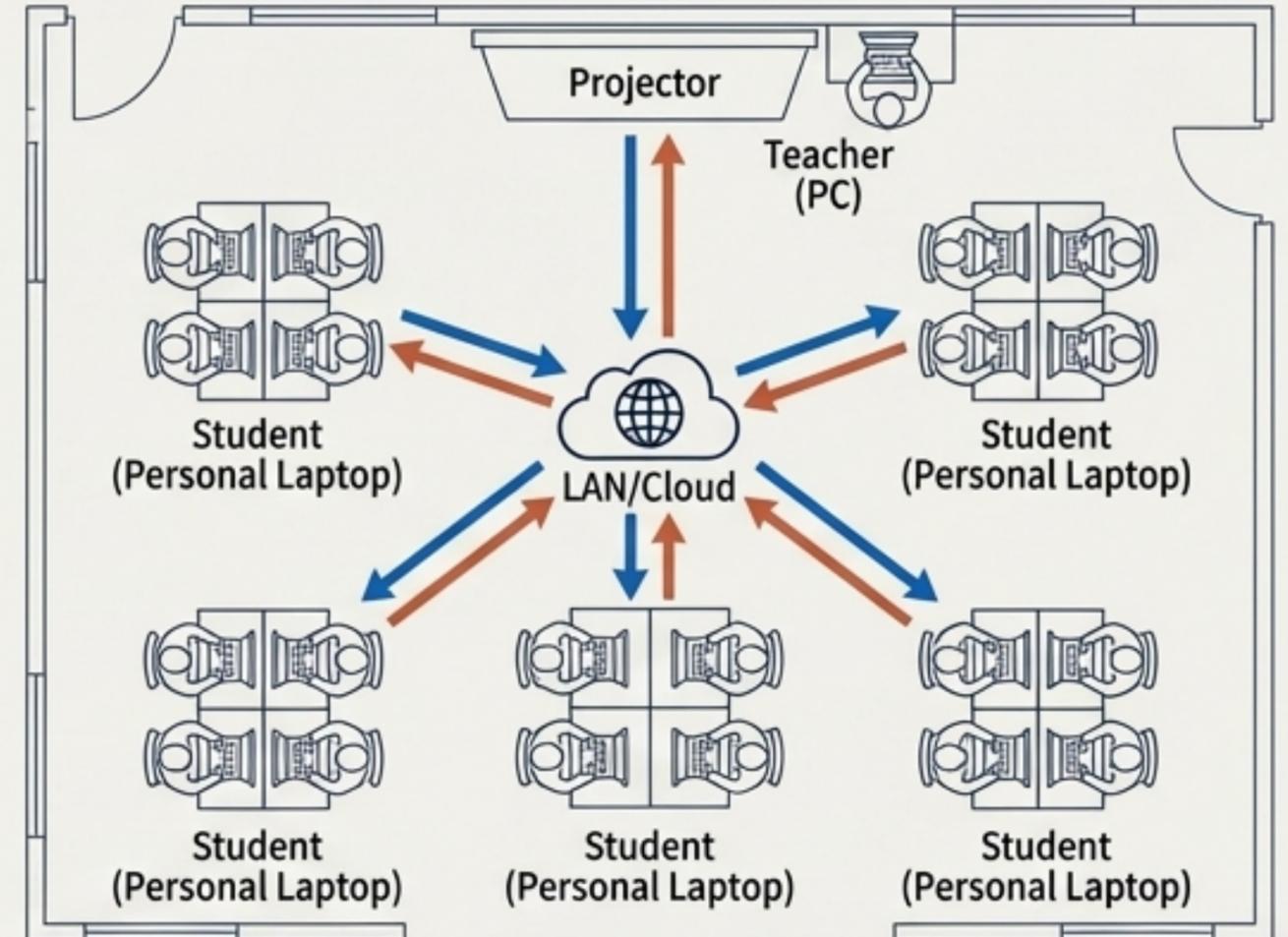
「操作を教える」から「機器を用いて学習する」へ

Before: 従来型授業



黒板への板書と、それをノートに書き写す受動的な知識伝達。

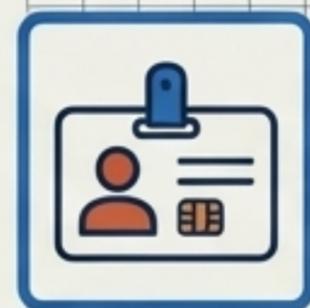
After: ネットワーク型授業



- 学内LANやインターネットの情報をプロジェクタや手元のモニタに投影。
- 学生は持参したノートPCに資料を取り込み、自ら活用する。
- 情報倫理や企業での情報活用状況、経営と情報の関係など、幅広い「情報リテラシー」を修得する場への進化。

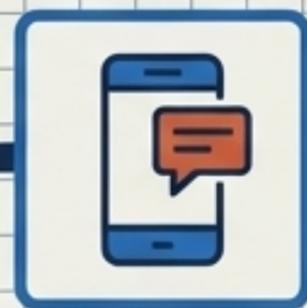
キャンパスライフ全方位のデジタル化（授業以外の情報化）

事務・生活の合理化
シラバスや時間表のデータベース化による履修計画支援。
各種証明書の自動発行。
IC学生証を用いた食堂や売店でのキャッシュレス決済。



家庭学習・遠隔授業

高速回線を利用した自宅での教材アクセス・電子メール質問。
大学間をネットワークで結ぶ共同授業の実現。



学生への連絡サービス

携帯電話からのアクセスによる休講情報の確認（登校の無駄を排除）
や、セキュリティを確保した成績照会。

「閉じた大学」から「発信する大学」へ（社会への貢献）



大学の透明化とPR

シラバス、教員の研究報告、専門分野の解説などをWebサイトで公開。進学希望者への強力なサービスとなると同時に、社会貢献として機能する。

学生の情報発信能力育成

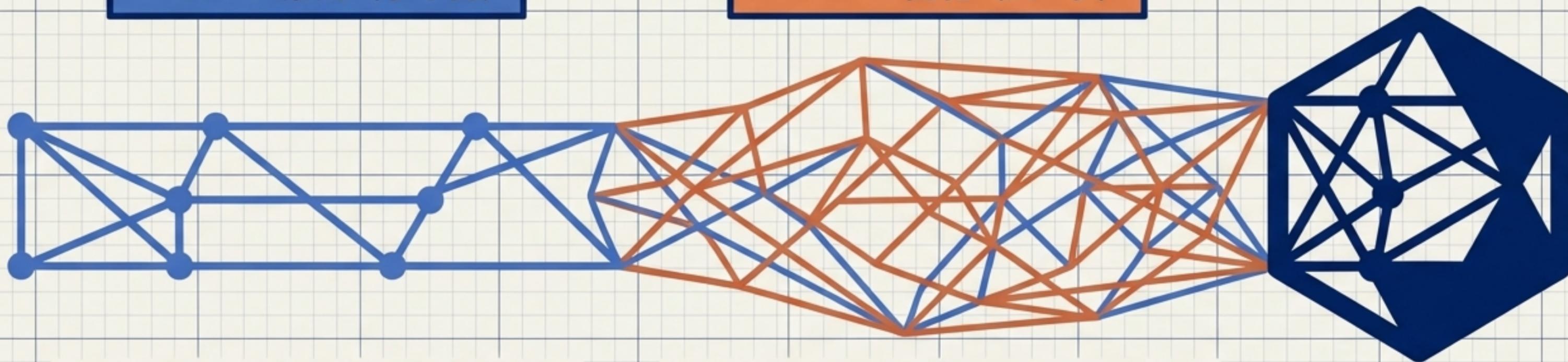
適切な指導のもと、学生自身が研究論文やサークル活動、個人のWebページを公開する。

単なるPRにとどまらず、実践的な「情報発信能力」の向上と、「情報倫理観」の醸成を同時に達成する。

結論：IT教育が創り出す、新しい人材のパイプライン

Phase 1: 形成 (小中高)

Phase 2: 開花 (大学)



国の主導による「インフラ整備」と「標準カリキュラム」を通じ、全国的な情報リテラシーの【基盤】を形成する。

生き残りかけた「独自サービスの展開」と「高度な学習環境」を通じ、社会で通用する【実践力】を開花させる。

高度情報化市民

単なる「機器の導入」ではない。生活・学習・発信のすべてを通じた【情報化社会の体得】こそが、日本の未来を牽引する真の教育トランスフォーメーションである。